

ほけんだより

病児・病後児保育室「みどり」

令和5年1月20日発行



今月のテーマは 「**感染性胃腸炎**について」 です！

感染性胃腸炎とは？

微生物(細菌,ウイルス,原虫など)の経口感染によって起こる、主に嘔吐や下痢、発熱といった症状を引き起こす病気です。汚染された水や食物の飲食を介した食中毒として起こる場合や、集団発生する場合があります。



感染性胃腸炎の原因

1. ウイルス性

寒く空気の乾燥した状態である**冬から春**にかけて多く、乳幼児では重症化しやすい。嘔吐 → 下痢症状(数日してから出現すること)も、発熱(微熱程度のことも)などの症状がある。

① ノロウイルス ② ロタウイルス などが有名。

この2つはアルコール消毒が効かないため、**石鹸手洗いが必要**となる。

吐物などの処理には、次亜塩素酸ナトリウム(家庭用塩素系漂白剤など)での対応が望ましい。

2. 細菌性

高温多湿な環境を好んで繁殖するため**夏に多い**傾向があり、重症化することもある。下痢が主な症状であり、**血便・腹痛・発熱**を伴うこともある。

① 病原性大腸菌 ② カンピロバクター菌 ③ サルモネラ菌 などが 있습니다。



治療法

症状や、周りの発生状態、症状が出るまでの数日の食事内容などを考慮して原因を検討します。細菌性腸炎の場合は、ウイルス性腸炎と異なり抗生剤が必要となることもある。対応としては以下に示すようなものがあります。

① 水分補給

下痢により脱水傾向となるため、水分摂取を促す。

電解質の含まれている補水液(ドラッグストアなどで購入可能)であると
なお良い。

水分がとれない・口にするとすぐに吐く場合には、早めに病院受診が望ましい。

② 整腸剤

下痢の悪化を防ぐ作用がある。必ず必要なものではない。

③ 下痢止め

基本的には不要。

薬により一時的に下痢は止まるが、下痢という形で体に不要なものを出しているため無理に下痢を止める必要はなく自然な形で排泄する方が良いと考えられている。

